

## 富士市商工会青年部こども見守り隊（静岡県）



令和2年度 関東ブロック 防犯ボランティアフォーラム  
(令和2年11月21日)

富士市商工会青年部こども見守り隊(静岡県)  
活動事例発表



『こどもの笑顔は元気の源、  
現役世代の「こども見守り」』

皆さんこんにちは。富士市商工会青年部の会長を務めています内海太一と、同じく富士市商工会青年部の一条幸弘です。どうぞよろしくお願いいたします。

これから、富士市商工会青年部が子供見守り隊として取り組んできた、現役世代防犯ボランティアの活動についてお話しします。活動を始めて10年目にこのような機会をいただきましたので、自分たちの活動の原点を振り返りながら、発表させていただきます。

富士市商工会青年部は、  
静岡県富士市で活動しています。



富士市(人口約25万2千人)は、富士山の麓の、  
製紙業を中心に発展した「紙のまち」です。

トイレットペーパーは、  
市内生産量年間約31.8万トン  
全国シェア30.4% (平成30年)



富士市は、富士山麓の自然の恵みも豊富です。



キウイフルーツ



ブルーベリー



田子の浦しらす



お茶



みかん

春には、満開の桜と富士山を  
眺めることができます。



静岡県富士市は、富士山の麓にあり製紙業が盛んで、特にトイレットペーパーの生産量は全国1の生産地です。また気候が温暖で、自然の恵みも豊かで、キウイフルーツ、ブルーベリー、しらす、みかん、お茶などが作られています。そして、春にはこのように富士山と桜の眺めがとても奇麗です。この素晴らしい町の中で仕事をしながら、より良い経営者になることを目指し活動しているのが、富士市商工会青年部で、その防犯ボランティアの取組がこども見守り隊です。

## 活動の始まり

静岡県商工会青年部連合会は、平成22年度より「こども見守り隊」活動を開始。

富士市商工会青年部も、商工会青年部の一つとして「こども見守り隊」活動を開始しました。



鈴木 尚 富士市長（平成22年当時）を表敬訪問。この事が...



5



防犯ボランティア、やってみない？

...これは、断ったら恐ろしいことになる...

富士警察署生活安全係K係長

6

現役世代防犯ボランティアの活動の始まりは、平成22年、静岡県商工会青年部連合会会長とともに、こども見守り隊活動のPRのため、市長を表敬訪問したことに始まりました。平成23年、富士警察署生活安全課の係長さんが富士市商工会に来られ、「現役世代として仕事に取り組んでいる若手の皆さんで、防犯ボランティアをやってみないか？」と声がかかり、どうやら市役所への表敬訪問の事を覚えておられ、関心を持っていたとのことでした。係長さんは、見た目が大きな方だったので、これは断ったら恐ろしいことになるかと不安になりましたが、「君たちのような若手の経営者が、地域の安全や魅力の向上に尽くしてこそ、自分自身の事業の発展にもつながると思うよ」と体格に似合わず、優しい言葉で誘っていただき、引き受けることにしました。

## 「現役世代の防犯ボランティア」指定伝達式

・平成23年8月2日 富士警察署にて



7

## 「防犯活動って何？」

信頼に  
応えたい！

仕事をしながら出来る事は何？



8

まず、出来ることから始めよう！

- ・青色回転灯を使ってパトロール
- ・各種行事での防犯啓発活動



では、何を重点にしようか？

9

「子どもの見守り活動を重点にしよう」

- ・防犯とは何かを学ぶ
- ・地域に伝える

10

こうして現役世代防犯ボランティアの委嘱を受けました。初めは防犯ボランティアと言っても、仕事しながら何をすればいいか想像が付きませんでした。推薦してくださった係長をはじめ、県警の皆さんの期待に応えなかっただったので、部員全員で相談を重ねました。その結果、自分たちのできる範囲で地道な活動をしていこうということになり、青色回転灯のパトロールや地元の祭りでの防

犯啓発活動に取り組み始めました。地元で啓発活動を始めてみると、もっと地元の子供たちや地域のために活動したいという気持ちが芽生え、何を重点にしようかと相談しました。それには、こども見守り隊の活動を重点にしよう、そして自分たちが第1に防犯とは何かを学び、第2に学んだことを地域に伝えと決めました。

## 防犯活動への参加

養護児童施設ひまわり園 防犯教室



11

## 様々な業種で力を合わせて

・造園業を営む部員がリーダーになって記念植樹を行い、果樹を育てる喜びを子どもたちに紹介。



12

## 様々な業種で力を合わせて

・建築業を営む部員がリーダーになり、木工作業場を使って部員全員でひのきの積み木を作り、贈呈。



13

防犯とは何かを学び始めた頃、富士警察署と富士防犯協会から、児童養護施設での防犯教室への参加の話をいただき、防犯指導を受けながら参加したところ、目をきらきら輝かせて学ぶ子供たちの姿がとても印象的でした。そこで、次からは施設の子供たちに何か心の成長になるようなプレゼントができないかとみんなで相談をして、造園業を営む部員がリーダーとなり、このような記念植樹を行い、果樹を育てる喜びを子供たちに紹介しました。他にも建設業を営む部員がリーダーとなり、木工作業場

を使って夜遅くまで部員全員で檜の積み木を作り贈呈しました。こうした活動を通して、子供たちが果樹を大切に育てることや、積み木を友達と共有することで心を豊かにし、自分や周りの人たちを大切にすることを子供たち自らが学び、それによって自分で自分を守ること、そして地域の一員としても、地域ぐるみで防犯活動に取り組むということにつながることに気づきました。これもさまざまな業種の部員がいる青年部ならではの取組です。

## 児童防犯教室に、独自の工夫をプラス



赤ずきんが  
子どもの前に出てきたら  
面白いじゃねえか？

望月隆之部長(平成24年当時)



14



「赤ずきん」  
に欠かせない  
オオカミも  
しっかり用意。



15

防犯教室にも青年部らしい工夫をもっと加えようと相談していたところ、「赤ずきんちゃん ちゃんとチェック」というアニメーションを実写化するというアイデアがあがり、この教材は赤ずきんちゃんの童話をもとに、防犯の大事なポイントを分かりやすく紹介しています。「アニメを実写化



し防犯教室で動画を流した後に、赤ずきんちゃんや狼が子供たちの前に登場すると、インパクトがあって面白いんじゃない？」と、部員の中からも「面白そうじゃん、やってみようか」という声が挙がり、主役の赤ずきんちゃんに幼稚園の女性の先生を部長が連れてきたことも、強力な推進力となりました。

### オリジナルの動画教材を活用



16



多くの方々の協力を得ました。

17

また、この作品には警察官や防犯指導員も参加してくれました。防犯教室で動画を上映し、子供たちは動画の中の赤ずきんちゃんや狼が実際に現れたことに驚き、真剣に身を守るための方法を学ぶことができました。赤ずきん役の先生が、都合により富士市を離れてしまい、どうしようと困っていた時に、またまた部長が女性の保育園の先生を連れてきてくれました。このようにしてできた動画は、多くの方々の御協力があったからです。動画は、「赤ずきんちゃんのお約束」というタイトルで、幼稚園などの防犯教室で上映し、本物の赤ずきんちゃんと一緒に学ぶというスタイルを作りました。

幼児(小学校低学年まで)には、

#### 「5つのおやくそく」を紹介

- ①でかけるときは、だれと、どこに、なにをしに行くのか、つたえること
- ②みちくさしたり、ひとりでは、ぜったいにあそばない
- ③知らないひとには、ぜったいについていけない
- ④つれていかれそうになったら、すぐにげます
- ⑤ともだちが、あぶないときには、たすけをよびます

18

児童向けの教室では、赤ずきんちゃんと一緒に 5 つのお約束を学びます。

1つ、出かけるときは誰とどこに何をしに行くのか伝えること。2つ、道草をしたり 1 人では絶対遊ばない。3つ、知らない人には絶対についていけない。4つ、連れて行かれそうになったらすぐに逃げます。5つ、友達が危ない時には助けを呼びます。皆様も覚えましょうか。

ここで、完成した動画の一部を皆さんに今から見ていただきます。

(動画上映)

皆さん、いかがでしたか。

#### 職業教育を実施

大変さと楽しさ



喜びや責任



ルールやマナー

19

#### 静岡県子ども虐待防止オレンジリボンたすきリレー に第1回(平成27年)から参加しています。



20

子供たちが犯罪に巻き込まれないため、そして将来のことをしっかり考えることは、とっても重要なことです。そこで、青少年職業教育を行ってみました。職業教育では会社の経営に携わっているからこそ伝えられる仕事の楽しさと大変さ、そして自分たちの仕事が生かされていることの喜びや責任を子供たちに伝えることで、ルールやマナーを学び、それが結果として防犯にもつながるものとして取り組んでいます。さらに、近年深刻化している児童虐待に対し、児童虐待の防止を広く啓発するため、日本各地で行われていますオレンジリボンたすきリレーに、第1回目から参加をしています。残念なことに今年度は中止になってしまいましたが、これからも児童虐待防止啓発のために継続して参加をしていきます。

### 部員が次々と卒業...



経営者としての成長、  
地域への貢献

しかし、これからの課題もあります。その1つに仲間の確保です。商工会青年部には45歳の定年制度があり、部員が徐々に少なくなってきました。卒業した部員は、OBとして協力してくれていますが、活動をリードしてきた部員の卒業は影響が非常に大きく、新入部員の確保は活動の継続のために、非常に大きな課題となっています。私たちは仲間同士で協力して、地域との連携をより大切にして活動に取り組むことで、経営者としてのさまざまな知識を広げ、新しい仲間を迎え入れる取組に力を入れて

います。

・ 家族、近所、地域

・ 学び、伝え続ける。



22

**地域や企業の宝！  
子どもたちの安全と健全な育成**



23

このように活動を通じて自分の家族、近所、そして、地域へ防犯の大切さを広げ、さらに学び、防犯とは何かを地域へ伝え続けることが、犯罪の防止につながると気づくことができました。特に子供たちは、地域社会と企業の将来を担う宝であり、子供たちの安全を守り健全な育成をサポートしていくことに、より深く向き合えるようになりました。これからも事業に励み、高い意識を持って、もっともっと良いといえる地域社会づくりを担っていきます。

活動が10年目となり、改めてなぜ活動が継続できたかを振り返ってみますと、大きく分けて3つの要因がありました。

1つ目は、富士市には防犯ボランティア活動を行うための、独自のサポート体制があったことです。富士警察署、富士防犯協会、富士市役所が三位一体となって、防犯の取り組みに対して金銭面や活動面のサポートしており、

### 継続できた理由を振り返ると...

#### ①富士市独自のサポート体制があった

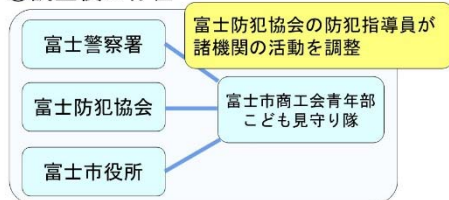


24

我々青年部もそのサポートを受けることができました。

継続できた理由を振り返ると...

## ②調整役の存在



25

継続できた理由を振り返ると...

## ②調整役の存在



26

2つ目は、調整役の存在です。活動を推進するには、各機関との連絡調整を行いながら活動企画し、指導を行う調整役が重要となります。その調整役は、富士防犯協会の防犯指導員がお一人で担っており、青年部も普段から何か困ったことがあるたびに相談に乗ってもらい、活動のレベルアップに取り組むことができました。



7

継続できた理由を振り返ると...



3つ目は、諸先輩の御活躍から学ぶことができたことです。特に富士警察署地域安全協議会の皆様です。平成6年から活動を積極的に行い、全国防犯功労団体賞や、女性部に至っては内閣総理大臣賞を受賞するなど、その活動は高く評価されており、そんな方々が身近にいたことが励みになりました。

こうしたご指導をいただき、学んだことを活動のレベルアップに生かしています。防犯教室では、地域安全協議会の皆様から子供たちへの接し方や教え方など、実際に防犯教室に参加することで、多くのことを勉強させていただきました。しかしまだまだ学ぶべきことは多く、これからも引き続き諸先輩方のご指導をお願いしたいと思っております。

ご指導・ご支援下さった多くの皆様、  
心より感謝申し上げます。

ご清聴ありがとうございました。

29

私たちをこうした活動の場に導いてくださった、たくさんの諸先輩方、富士警察署、富士防犯協会、富士市役所をはじめ関係機関の皆様に対し、心より感謝の気持ちを表します。そして、私たちは現役世代の防犯ボランティア活動を築き上げ、さらに伝承していくことで、先輩方に負けない新たな防犯活動をしていくことを、今日ここに誓います。皆様、本日は最後までご静聴いただきまして、ありがとうございました。

## 講 評

木宮 発表ありがとうございました。子供にメインのターゲットを当ててということで、やはり若手の方々の活動ということもあつてか、私自身が特に子供の安全ということを中心に活動しておりますので、非常に感じる部分が多くありました。特に最初に、直接的な防犯ということだけではなくて、子供たちと良い関係を築いていこうとするいろいろな取組は、非常に重要だと感じています。子供たちと良い関係が作られれば、お互いの信頼関係もできてくるでしょうし、またその信頼関係が最終的には安心感というものの創出につながっていくということですから、ここを丁寧に活動されているなど感じました。これも親世代の方々というところもあるのかとも思います。

また、職業教育とか児童虐待についてもそうですけれども、非常に幅広い見知で活動されています。特に職業教育の中でもありましたように、ルールやマナーを学ばせるということについては、犯罪予防だけではなく、将来的にはいわゆる非行予防、犯罪者を生まないということにもつながっていく重要な活動であります。また虐待については家庭の中での話で、通常のボランティアですと、なかなかそこに踏み込むのは難しいわけです。実際には、児童虐待は子供が被害を受ける事件の最も多いということですので、いずれは、やはりこういうところを何とかしなければいけないということは明らかですけれども、そういったところにも関わっているというのは、やはり親世代の皆様だからこそということかと思います。

そういった意味で、若手の方々ができることの非常に先進的な事例として学ばせていただきました。ありがとうございました。